

こぶしだより

Vol. 362

2014・1・19 発行

あけましておめでとうございます。

こぶしの会の就労支援事業所の2014年は、1月4日からスタートしました。そんな年初めの日に、書き初めで一年の思いを利用者、職員共に綴っていただきました。昨年の良いこと良くなかったことを引きずらずに、心新たに新しい年を迎え一年

を駆け抜けていきましょう。
それでは各事業所をまわって利用者、職員の一
年の抱負を伺っていききたいと思います。

はたちになりました。上手に書けたでしょ。
書き初めは大好きなおとうさんにプレゼントします。
(上三川ひまわり：木野内あずさ)



●新春@書き初めで綴る一年の思い…2-15

●400字で語る福祉 ⑨山口初代(セルフ・みらい支援員) ⑩森島知代(こぶし作業所支援員) ⑪並木ルイ(上三川ひまわり看護師) ⑫長谷川章子(けやき作業所支援員)…2-15

●新・たまみシユラン「おらがそば茶屋」…6-17

●報告/けやきまつり/新・看板/クリスマス会招待…8

●一般就労者の現在 ●キャリアリーこぶし…9

●こぶしづかん…10

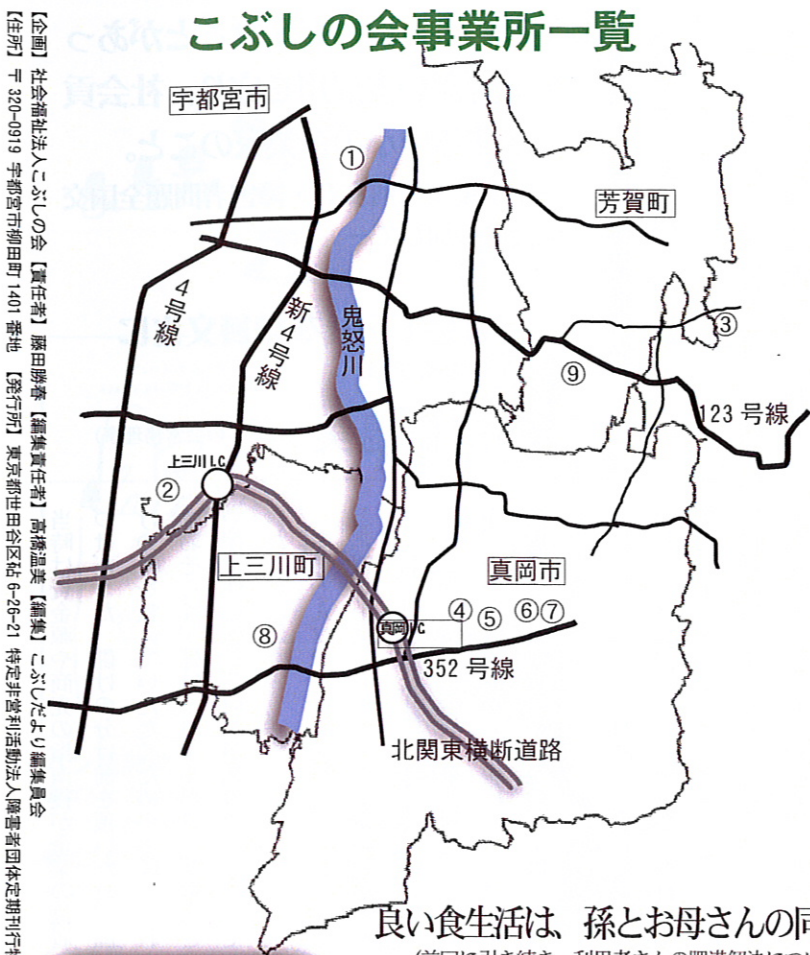
●連載「社会モデルを地域文化に」⑪…11

●事業所一覧 ●おのぶくろう…12



二回目の年男を迎えることになった柄澤裕樹さん。書き初めでは、「目の前の事を正確に」と書き表してくれました。そのころは、作業面でももちろんですが、「失った自分を取り戻すための第一歩」と話してくださいました。就職を目標に、足元をしっかり踏みしめて駆け抜けていってほしいですね。

こぶしの会事業所一覧



【企画】社会福祉法人こぶしの会 【責任者】藤田勝春 【編集責任者】高橋温美 【編集】こぶしだより編集委員会
【住所】〒320-0919 宇都宮市柳田町1401番地 【発行所】東京都世田谷区站6-26-21 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価50円

良い食生活は、孫とお母さんの同居!?

(前回に引き続き、利用者さんの肥満解決について)
皆さん知ってますか? 生活習慣病3大死因は、がん、脳血管疾患、心臓病。肥満はこの3疾患になるリスクを上げるんです。メタボやばいですね。
今回は、そんな悩みを解決する合言葉「まごわやさしい」を食生活に取り入れると、あ～ら不思議。生活習慣病と老化予防、疲労回復ができるんです。1回じゃなく1日の食事でOK。
ま=まめ、ご=ごま、わ=わかめ、や=やさしい、さ=さかな、し=しいたけ、い=いも。逆に生活習慣病になりやすい例えは「おかあさんやすめ」です。お=オムレツ、か=カレーライス、あ=アイスクリーム、さん=サンドイッチ、や=焼きそば、す=スパゲッティ、め=目玉焼き。
孫とお母さんが組み合わせる食事が出ると良いそうです。孫とお母さんの同居…大切ですね!! ちなみに「おかあさんだいき まますてき」もあります。気になる皆さん調べてみては?



【編集後記】

●ふだんはお酒は飲まないのですが、正月は実家に帰り毎晩美味しくいただきました。お酒は自分が飲みたい分だけ好きなように飲めるのがいちばんですね。(菊地)
◆先日横浜へ出かけてきました。そこで初めての経験。ランドマークタワーの69階にある展望台フロア「スカイガーデン」へ10時30分ごろ行ってみた結果。どこまでも続く長蛇の列…従業員に聞いてみたところ「もう並ぶこともできません」とのこと。まだ午前中だったのに…悲 (小野)
♥最近、歩きスマホが話題になっていますが、就寝前のスマホ利用にも注意が必要だそうです。

眼精疲労を引き起こす原因になるので、就寝前にベッドの中でスマホを使うのはお勧めできないそうです。自分の毎日の生活を反省しました。逆に、朝から日中は適度にブルーライトを浴びるのはお勧めのようです。目覚めをすっきりさせたり、睡眠の質を向上させる働きがあるとのこと。浴びる時間を工夫すれば逆に体内リズムの調整にも役立つなんて驚きです!(長谷川)
★初めての取材で、わからないことばかりですが、これから皆さんを引き込めるような記事を書いていきたいと思っています。よろしくお願いたします。(手塚)
◎これが出来上がる頃はちょうど新年を迎えている頃でしょうか? 毎日が必死でバタバタと仕事をこなしていたらいつの間にか年が明けちゃいました。今年は慌てず落ち着いて仕事をしたいなと思います。すぐテンパるので(笑)(尾池)
◆先日の健康診断で、先生から「これ以上体重増えると、マズいね」と笑顔で宣告されてしまいショック! 20年前とはいなくても、せめて10年前の体重には戻りたい。信じていただけないでしょうが、昔の僕は、もっともっと細かったのです!(松本)
♪昨年は…相田みつおさんの詩のひとつ「聞いてくれる人のおかげでくちもこぼせる」を痛感した1年でした。聞いてもらえることに感謝しないとイケないですね。(篠崎)



400字で語る福祉⑩

※職員が400字で思っている「福祉」を語ります。

◎森島知代さん(こぶし作業所支援員)

人とのつながり

「福祉とは何か」。そもそもなぜこの仕事をしているのか、と考えた。小学校の頃クラスに知的障害の子がいた。子供は自分と異なる人や常識から逸脱した人を厳しく非難、疎外するもので、クラスの男子も時にその子に厳しかった。そんな光景が嫌で私はいつもその子の味方だった。高校の頃ボランティアを通して「障害者っておもしろいな」と思うようになり、地元の大学で福祉を学んだ。そして今に至る。

福祉といっても領域は幅広く様々だ。作業所で働く私にとっての福祉とは「人とのつながり」だと思う。連携とも言える。法人内の事業所間、職員間とのつながりはもちろん家族、医師、医療機関、行政、他の福祉サービス事業所等々と本人をつなぐこと。安心、安全、快適に過ごせるような色々な機関が関わり支えていく。

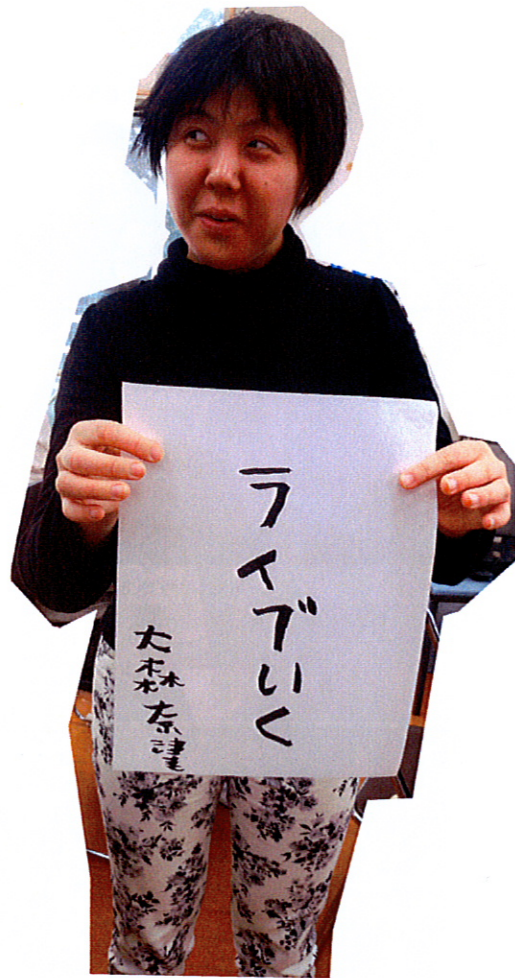
そして職員の人たちにできるのは単に「作業」を一緒にするだけでなく、少しでもできることが増えるよう無駄な手助けはせず見守ることや、現存の能力が低下しないよう維持すること、日常の常識を教えること、時にはふさげ合うこと。日中一緒にいる時間が長い分、私たちは彼らに寄り添い、一番近い存在となりうると思う。そうして関わっていく中で心と心がつながっていく。同じ障害を持っていても一人として同じ人はいなく、いろんな人がいるから面白い。それが福祉の魅力でもあると思う。



1月4日から営業開始だったので書き初めできませんでした。抱負だけ言わせてください。

- ・田中好光さん：もう少しお客様を増やしたい。
- ・築哲也さん：何事にもお客様に感謝する。
- ・各和謙さん：オーダー取りが出来るようになりたい。
- ・田中一行さん：色々な面で飛躍する年にする。(午年の年男)
- ・長内寛さん：そば茹でが上手になり蕎麦打ちを覚えたい。
- ・吉澤イツ子さん：体調管理を万全にする。

おらがそば茶屋
(芳賀町)



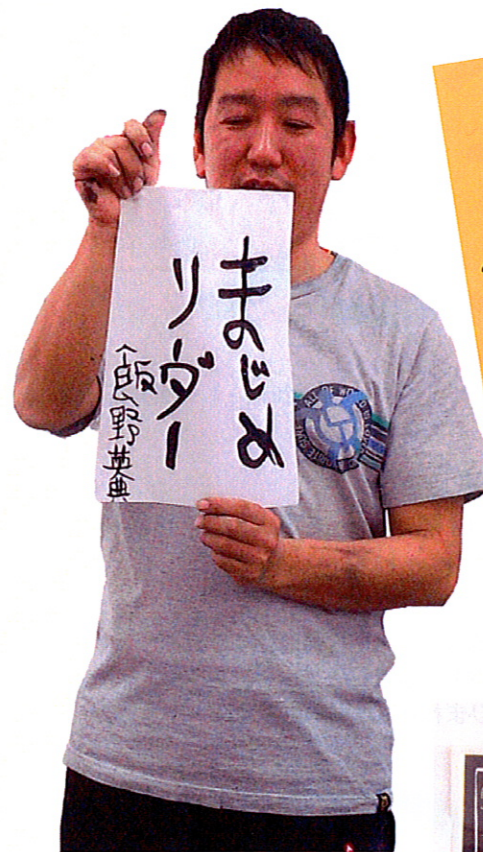
プライベートから仕事のことまで思いの抱負を書いてくれました。

写真上：Hey! Say! JUMPの山田くんのファンなんです。

写真下：再就職目指してます！

写真右頁左上：自治会役員も務めているがんばり屋

写真右頁下：今年はリハビリをがんばります。



こぶし作業所
(宇都宮市)

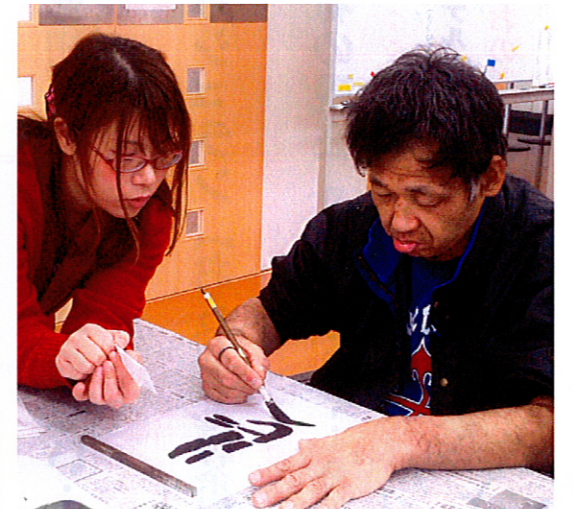
班では分割をしたいと思います。
レジしめは小野さんに頼みます。
ストレスをためないように、
自分のからだに気をつけます。



パン班に配属されている島山明香(さやか)さん。昨年は仕事だとレジしめが楽しかったです。お金のことを少しずつ覚えられたのが良かったです。今年は、パン



仁平菜々子副所長。昨年はあつという間に駆け足で過ぎてしまいました。書き初めて「子は餃子」と書きましたが、人と人とのつながりが大切な仕事だと思います。今年はたくさんの方々と協力して歩いていける年にしたいと思っています。馬のように駆け抜けず、時々立ち止まって周りを見渡しながらよい年にしたいと思っています。
ほかにも、石川幸子さん、岩上明支援員が年男・年女でした。



400字で語る福祉⑨

◎山口初代さん(セルフ・みらい支援員)

他人の幸福のために心を砕く…人間として美しい姿だと思う…

私は障害者福祉に携わってまだ1年半で「福祉」のほんの入り口です。そんな私の考える福祉は「どんな境遇の人もどんな障がいを持つ人も、人として尊重され尊敬されること。また人間の幸福の実現、平和と平等の実現のために必要不可欠なもの」ということです。援助を必要としている人の自己実現のために奔走し、また、生き生きとした生命を全うしていたくために心を砕く。たとえ不完全ではあっても、人間として

美しい姿だと思います。

しかしながら現実の仕事では、客観的に自分の内面や相手を見つめる眼をしっかりと持たないとすぐに目的を見失ってしまい、ともすると相手を逆に傷つけてしまうことにもなりかねない危うさも抱えていると思います。

毎日の機会を大切に思いながら、一つ一つ経験を積み重ねて行きたいと思っています。



←当日年男が職員しかいなかったで別角度からのチョイス。写真だけでごめんなさい。

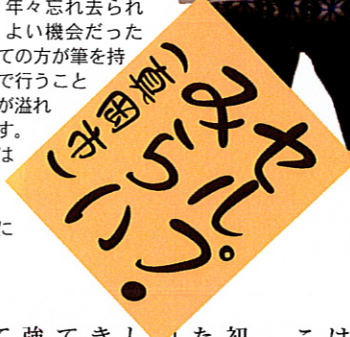
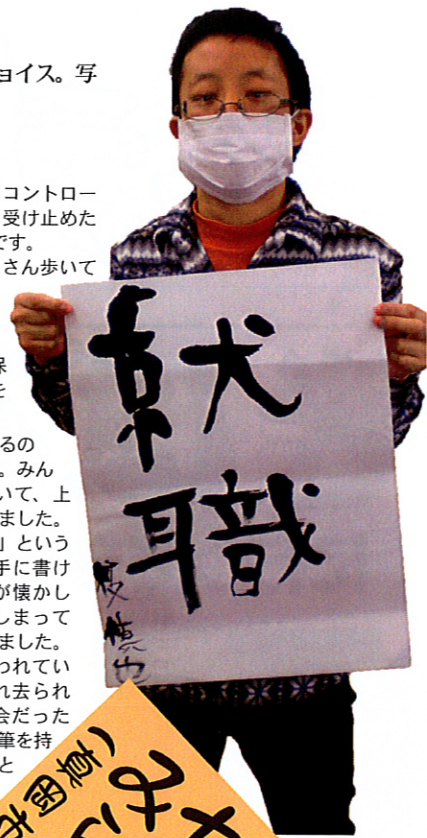
他にも、書き初めを行った利用者、職員の声です。
●作業は、あんまりがんばりすぎないように注意しながらコントロールしたいです。そして皆の意見をちゃんと聞いてしっかり受け止めたいと思います。職員の言うことを聞きたいと願っています。

●僕は「ダイエットと散歩」が今年の目標だよ。毎日たくさん歩いて健康な体にきててください。そうするとアトピーもなおるかな？作業中寝ないようにしたらお給料いっぱいもらえるかな？

●今日は目標、「勇気と希望」を書きました。「体を健康に保つ」です。いっぱい楽しくすごす。たくさんいろいろな仕事を



チャレンジしたいです。
●墨や半紙など、目にするのはだいたい久しぶりのこと。みんなそれぞれ個性が出ていて、上手だったし、楽しんでいました。私の目標でもある「健康」という言葉もあり、とても上手に書いていました。書き初めが懐かしそう思え、漢字を忘れてしまっている自分にも気づかされました。
●昔の時代では必ず行われていた行事ですが、年々忘れ去られてつづる現在、よい機会だったと思います。全ての方が筆を持ち、体験し、皆で行うことでより一層笑顔が溢れたように感じます。やっぱりみらいは皆仲よし笑顔が多いところだと実感する一日になりました。



枝慎也さんは、「書き初めは高校のとき以来なので、ふつうに楽しめました。今年の目標は、はやく就職できるようにいまの仕事を頑張ることです。」としっかりと決めてくれました。
つづいて渡邊支援員は、新年を迎え、みらい初日に書き初めとはいかにもと思つて臨みましたが、皆の楽しそうな姿に心が和みました。それぞれが思い思いの気持ちを文字や形に書きましました。個性あふれるなかま達は誰にも真似のできないものを、墨で完成することに夢中になっていました。今年の目標として、「就職」と力強く書いた人を全力で応援しなければと新たな誓い立てさせられました。



400字で語る福祉⑫

◎長谷川章子さん
(けやき作業所支援員)



「ごく普通の生活」を実現すること

福祉とは「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味する言葉だと学生時代に学んだ。調べてみると、社会の全ての人々が幸福で安定した生活を営むこと、というような言葉が出てくる。福祉はすべての人を対象としており、障がい者や高齢者に限られたことではないのだと思う。

幸福で安定した生活とはどのような生活かと考えるととても難しい。価値観や環境の違いの中でとらえ方は様々であると思うが、「ごく普通の生活」と考えてみる。

障がい者や高齢者の中には、人の手を借りなければ幸福で安定した生活を得ることができない人がいる。ごはんを食べる、お風呂に入る、トイレに行く、寝る…その人たちに幸福で安定した生活をもたらす、それを保障するための社会的な手立てが一般的に思い浮かべる福祉（社会福祉）なのだと思う。

しかし、これは障がい者や高齢者に限られた事ではないと思う。「福祉」は、日常のあらゆる場面に必要不可欠なものであり、そこに人と人とのつながりがあり成り立つものだと思う。



「としおんな」と書いた塚本展子さんは今年で60歳を迎えられます。そんな塚本さんの新年の抱負は、「休まないで作業所に来る！」。健康第一に。もう一人の年女の平石利香さんはパン班で働いています。書き初めでは「パン？」と書き、仕事への愛情が感じられますよね。そんな平石さんは、「仕事を元気にがんばる！」と話してくださいました。



400字で語る福祉⑪

◎並木ルイさん
(上三川ふれあいの家みまわり看護師)



なんでもありなんだよな～と思いつつ…

福祉の現場に来てから早(?)1年と7か月。福祉という言葉の意味や解釈など調べてみてもなんとなく「こういうことか～」と思う感じ。

短大時代にアイデンティティの確立に苦しんでいたとき(大笑)、物理の先生がふつと言った言葉「なんでもありなんだよ。人間なんだから」。それを聞いて私自身、「でも犯罪はまずい

よな、でもものつぎなら理由があるからダメとは言えないのか…」などかなり悩んだが、要はなんでもいいんだ、人間だから、と思えるようになってずいぶん自分が楽になったと思う。今働いていて利用者・職員それぞれみごとにばらばらだな～と思う。ありふれた言い方だけど個性が面白いと思う。なんでもありなんだよな～と思いつつ、職員は同じ目標にむかって、利用者個人の幸福すべき環境を、個人と公共的な視点から互いの理由を確かめながら手繰り寄せることができたらいいと思う。





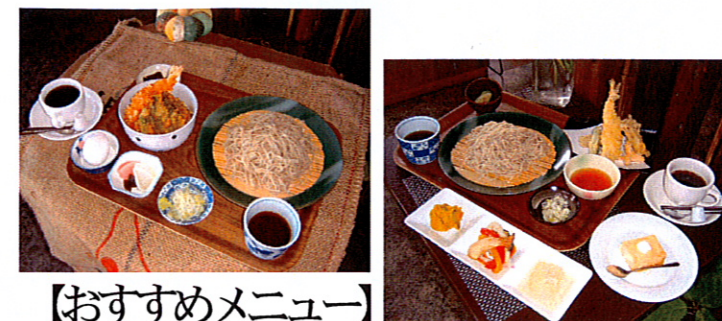
さてさて、今回も登場！たまみシュラン二代目 MAYU です。今回は「おらがそば茶屋」に行ってきました。前回たまみシュランで紹介してから早2年…私の周りの人たちからいい評判が聞こえてきました。

「そば茶屋のそば、風味があっておいしいよ。お稲荷さんとか厚焼き卵とかサイドメニューも値段が安くおいしい！前よりてんぷらが美味しくなったと感じる」とのこと。

…これは行くしかないでしょう！という訳で、あれからそば茶屋はどのように変貌を遂げたのかをご紹介します。(おいけ&おの)

たまみシュラン

おらがそば茶屋 に行ってきました～！



【おすすめメニュー】

10月から月替わりの季節メニューが登場！1月はどんぶりがセットのがつりメニュー(左)、野菜中心のヘルシーメニュー(右)の二本立てで提供します。職員が考え抜いたメニューをご賞味あれ！！

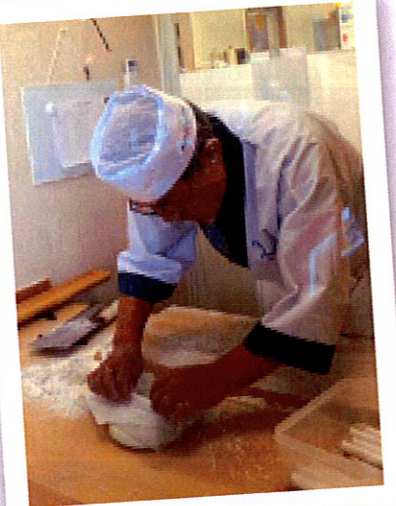
【そば茶屋の歩み】

当時、利用されていない空き店舗を借りて、日本財団の「福祉拠点整備助成金」をうけてスタート。内装、外装、バリアフリー化の改善を行い、就労移行支援及び就労継続B型事業の従たる事業所(作業室)として始まりました。

オープン当時はかけそば・もりそば・かき揚げからのスタートでしたが、今ではメニューも充実しています。

「常連の方から時には厳しいご指摘もありますが、その指摘があったからこそ、そば茶屋は成長できました。多くの方が来店してくれることを誇りに思っています。こぶしの会を代表するお店にしていきたい」と、熱い意気込みを語るのは主任の仁平さん。

他にもそば打ちクラブ(瑞穂野そば打ちクラブ)の先生やお店で使う食材を分けてくれる方など、多くの人に支えられてそば茶屋は営業しています。そんな多くの人の協力の元に作られる愛情いっぱいのおそば…いかがですか？



●そば打ちクラブの平田先生。一通入魂でおいしいおソバを打っています★



—お店の特徴は？

常連さんが多いです。客層は様々で、平日は女性やサラリーマン、休日は家族連れが多いですね。団体も事前予約があれば承っています。水・木曜日にはそば茶屋の前にて「けやき作業所」のパン。セルフ・みらい「お菓子工房ピケ」のお菓子を販売中しています。

—今後の目標は？

地域を巻き込んで、存在感をアピールしていきたい。

—利用者Aさんの目標

そば茶屋での仕事を通して人間関係をしっかり身に付け、社会性・ビジネスマナーを身に付け、自信を持って社会で羽ばたけるようになりたいです。



●これが店内。趣があるバックライトがいい味出しています。なんて素敵な空間！(^_^)！素敵♥

【おらがそば茶屋ってどんなところ？】

—おすすめポイントは？

落ち着いた雰囲気のお店づくりです。男女とも楽しめるお店を目指しています。女性の方にはゆっくりお茶飲んでお話しできる場を提供できるし、食事は全て手作りで盛りがいいので男性の方にはうれしいかなと思います。

—何人で働いているの？

仲間はホール2人、厨房4人、土日のみ勤務1人の計7人。(他に一人療養中。早く働けるようになるのをみんな心待ちにしていました)職員は3人です。



【MAYU 感想】

手打ちの細麺で、白くてきれいです。丹精込めて打っているのがわかります。のど越しが良く、風味があっておいしかった～！他にも、値段に応じたチョイプラスメニュー、黒蜜がかかったそばゼリーなどなどいっぱい食べて来ちゃいました(笑)

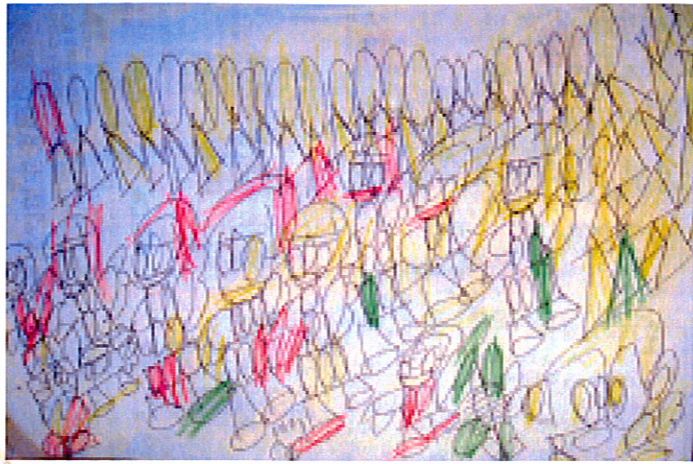
こぶしの会にこんな美味しいそば屋があるなんて…私の友達に自慢しちゃおう！(^o^)(皆様も是非一度足を運んでみては…？

おらがそば茶屋 ●芳賀郡芳賀町西水沼 438-2
●電話 028-680-5091 ●FAX028-680-5092
●開店 11:00～14:00 (L.O) 月・火定休



★クーポン★★★★
★こぶしだよりを持ってきた方に、そばゼリーをサービスします。
★お食事の方のみ有効です。
★お店の都合でサービスを中止することがあります。ご了承を。

普段の楽しい 作業の様子を描く。

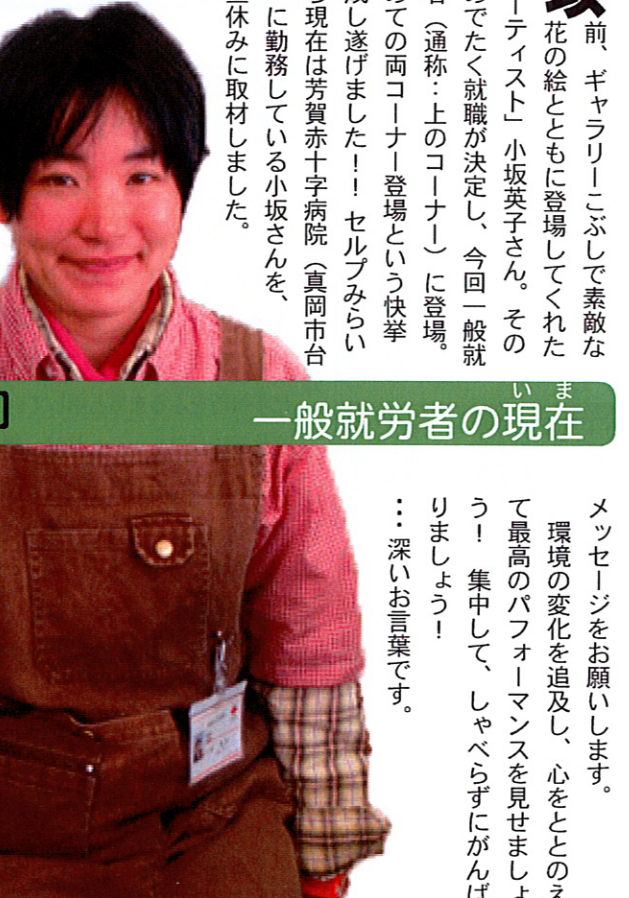


「早く、帰ってき
てほしいよね。」
との問いに大きくうな
ずいていました。願いかなって、無
事に再開を果たせるでしょうか？
ポッキー、もしこれを読んでいたら、
とみちゃんの所に戻ってきてあげてね。
余談ですが、取材中にもお茶を入れ
てくれたり、「お・も・て・な・し」を
してくれた仲間みんな、ありがとう！
すぐくうれしかったです。
また、来ますね！（まつもと）

「とみちゃん」の願いは…？
仲間からは「とみちゃん」と呼ばれ親
しまれているけやき作業所の柳富美子
さん。彼女の作品は、自分とパン班の
仲間たちの作業風景。一見、みんな同
じような顔に見えますが、一人ひとり
特徴があるようで、「この人は〇〇さん
これは〇〇さん」という具合に即答し
てしまうからすごい！ 作品を見つめ
る明るい表情からも、普段の楽しい作
業の様子が伝わってきました。
パン班では、生地の手渡し作業や洗
い物の片づけ作業に取り組み、休日は
テレビを観たり（歌番組やマンガが多
いそうです）して過ごすという柳さん
ですが、最近シヨック
な出来事がありました。愛犬の
「ポッキー」が散歩中
に逃げてしまい現在
行方不明とのこと。
「早く、帰ってき
てほしいよね。」

— 仕事で大変なことは？
— 体力がきついです。でもいいトレ
ニングになってます。
— 今後の目標を教えてください。
— 仕事と勉強と練習のレベルアップ。
— 何の勉強を？
— 英語とフランス語です！
— すい！ 練習というのは？
— ランニングとか、ピラティス（ヨガみ
たいなものらしい）とか！
— 就職を目指している仲間に、何か

— まず、両コーナーに登場
した感想をお願いします。
（即答で）うれしです！
— 今はどんなお仕事ですか？
— 毎週月曜から金曜に病院内のラウン
ジ、廊下、階段、トイレの清掃をして
います。
— 仕事で大変なことは？
— 体力がきついです。でもいいトレ
ニングになってます。
— 今後の目標を教えてください。
— 仕事と勉強と練習のレベルアップ。
— 何の勉強を？
— 英語とフランス語です！
— すい！ 練習というのは？
— ランニングとか、ピラティス（ヨガみ
たいなものらしい）とか！
— 就職を目指している仲間に、何か



就労めざす人は、心を整えて、最高の パフォーマンスを見せましょう！

休日には花の絵を描いているそう
で、腕は決して錆びついていないよ
うです。また、クラシックやジャズ
音楽を聴いたり、フラワーアレンジ
メントのスクールにも通っていたり
と、アーティストの名に恥じぬ活動
ぶり。みらいにいた時より収入も段
違いに増え、働くことの喜びを強く
感じているそうです。
今年の秋には井頭マラソン大会に
も出たいと力強く宣言してくれた小
坂さん。これからも走り続けてくだ
さい！

いま 一般就労者の現在

メッセージをお願いします。
環境の変化を迫られ、心をととのえ
て最高のパフォーマンスを見せましょ
う！ 集中して、しゃべらずにがんば
りましょう！
…深いお言葉です。

200人超の来場、前回の3倍！ 2013.12.14「お・も・て・な・し」 けやきまつり大成功

冬！晴天！強風！の中、おまつり開始のファン
ファーレを奏でたのは、衣装もかわいい総勢34人
（+先生2人）の芳賀東小マーチングバンド。寒さ
を吹き飛ばす演奏&パフォーマンスで会場がぼっ
かぽかに温まりました。

室内に目を向けると、マジックショーにクリスマ
スツリー工作、来場者を巻き込んだ即席けやきバン
ドのライブなど、イベント目白押しでした。中でも
人気が集まったのはお食事コーナー。今回の目玉、
窯から直売焼き立てパンの芳香が会場中を包むと、
長い行列が売り切れまで続きました。（牧岡）

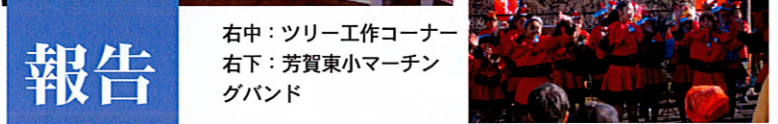
◎けやき作業所・先灘所長
けやきまつりを開催したことで地域の方に楽しん
でいただき、作業所への理解を広め、深めていただ
けたのではないかと考えています。いつもながらた
くさんの方々にご協力をいただき成功に結び付け
ることができました。ありがとうございました。
[ご協力いただいた皆様]（敬称略）

ハイコーバック、芳賀町役場、芳賀町社会福祉協
議会、真岡北陵高等学校、地域のボランティアの
みなさん、芳賀東小学校、野澤重雄、坂内孟、真
岡新聞社、けやき作業所等家族会、同後援会、日
産自動車栃木工場、他関係者の皆さま

看板ビフォー・アフター
けやき作業所の看板が新しくなりました。
ハイコーバック（芳賀町祖母井）様からのご厚意で
建て替えていただきました。ありがとうございました。



あの錆びた板切れが… なんとということでしょう！



報告

右中：ツリー工作コーナー
右下：芳賀東小マーチ
ングバンド

ダブルX mas チャリティーに感謝感謝

上三川ふれあいの家ひまわりでは12月2日に岡本瑞香堂（上三川町
上蒲生）様のお力により、盛大なクリスマス会が催されました。図書ボ
ランティアチームの影絵&紙芝居に始まり、アフリカンダンスとミニコ
ンサートで大いに盛り上がりました。おしまいはポインセチアとお菓
子のプレゼントまでいただいてしまい大満足の日でした。ありがとう
ございました。

また、16日には日産自動車栃木工場の工長
会様からも素敵なクリスマスプレゼントをいた
だきました。ありがとうございました。



右上：日産工場長会、中：岡本瑞香堂です。



わたしのおすすめの本

こぶしづかん

見た目で決める 好き嫌い。 でもパンは好き！

高松秀美
(たかまつ・ひでみ)さん
けやき作業所生活支援員



パン語辞典
●ぱんとたまねぎ / 著
・荻山和也 / 監修
●誠文堂新光社 / 1200円+税
パンにまつわる言葉をイラストと豆知識でおいしく読み解く。



就職活動でけやき作業所の見学会に来た高松さん。物を作る作業に携わりたいたいと思いが通じ、今のパン班に就けたとのことでした。高松さんのストレス解消法は「寝る・忘れる」。嫌なことはクヨクヨ考えずに忘れてしまうこと、家に帰ると2匹の犬に癒されると話してくれました。

嫌いな生き物はナメクジやカタツムリ、見た目ヌメヌメした感じが苦手、逆に好きな生き物は犬とキリン。キリンは模様が好きなんだそうです。嫌いな食べ物はウニ、イクラ。これは見た目が嫌い、とても美味しそうには見えない。「食わず嫌いかも？ 食べていても記憶にない」とのことでした。セロリは味が苦手。好きな食べ物は海老、枝豆、パン。特にけやき作業所のくろみパン、とのこと。

そんなパン好き高松さんがおすすめする作品はやっぱり『パン語辞典』。本屋さんに行った時に仕事に関する本を見つけ手にしたそうです。本の内容はパンに関する基本的なことが書かれているが、活字だけではなく可愛いイラストが入りわかりやすく解説されている。活字が苦手な人でも、この可愛いイラストと解説で読みやすいのではと紹介してくれました。

今、仲間と一緒に働き仲間助けられるとき、「嬉しい。とてもありがたい」と感じ、パン販売、送迎と忙しい日々を送っている高松さんでした。(取材/手塚)

「お守り」ですので、みなさんもカバンに入れて持ち歩いてはいかがでしょうか？

工藤智広
(くどう・ともひろ)さん
法人本部・法人事務局書記



仕事のお守り
●ミシマ社 / 編著
●ミシマ社 / 1300円+税
心が折れそうな時、本気で何かを始めたい時。仕事の達人16人による「行きづまった時に効く」エッセイ集

法人本部で書記として働き、また今年6月からはGHくるみの世話人を兼務し、忙しい毎日を送っている工藤さん。GHくるみでは、朝方の生活に変えるのが大変だったとのこと。料理の好きな工藤さんはGHくるみで朝食を担当することが多く、時折、家でも家族に手料理をふるまうと話していました。

休日のリフレッシュ法は、頻繁ではないが、レンタルショップにて韓流ドラマで涙すると気持ちのリフレッシュになると話してくれました。

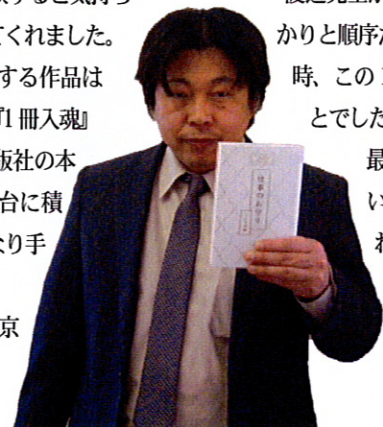
そんな工藤さんがおすすめする作品は「仕事のお守り」ミシマ社編『1冊入魂』という言葉が掲げた小さな出版社の本でした。最近書店に行くと平台に積んでいるのをよく見かけ気になり手にしたとの事です。

この本の中に思想家 渡辺京二さんの言葉で、

「せっかく生んでもらった自分のこの生命というものを、生き延びさせていくということが、それ自体で価値があることなんですね。(略) 社会のためになんか役立たんではよろしゅうございます。だいたいこの人間の歴史に、いろんな災いをもたらしたやつは、社会に役立ってやろうと思ったやつが引き起こしたわけでございます」

渡辺先生がこの言葉を生み出すきっかけが、しっかりと順序だてて書かれている、この文章を読んだ時、この1冊の本にグッと引き込まれたとのことでした。

最後に本のタイトル「仕事のお守り」という名の通り「お守り」としてカバンに入れておきたくなる1冊ですので、みなさんもカバンに入れて持ち歩いてはいかがでしょうか？との言葉をいただきました。(取材/手塚)



地域の宝とは、どんなことがあっても障がい者雇用を守り、社会貢献をする中小の企業家のこと。

—中小企業家同友会・障害者問題全国交流会に参加して—

社会モデルを地域文化に

(連載第10回)



高橋温美 (こぶしの会常務理事)

過去、企業は「商売の指南役」「資金源」だった。

私と企業家との本格的なおつきあいは、けやき作業所の建設・始動の頃、平成10年頃だろうか。建設資金準備のためコンサートのチケット販売からはじまり、町のお祭りに一緒に参加したり利用者就職先の開拓など、町や市の商工会をはじめとして中小企業家のみなさんと少しづつ顔なじみになってきた。先日もけやきまつりで当時の商工会青年部の方が立派な議員さんになっていたり、現在の法人理事や議員には中小企業の社長さんにお力になっていたりしていたりしている。多くのけやきOBを雇用していたらいたってハイコーパックの社長さんは今も後援会の会長さんをやっていたりしている。

大変失礼な言い方で申し訳ないのだが、

当時は資金源や商売の指南役が企業の位置づけだった。儲けの分け前を頂いたり、儲けの術を教えていたため手段、それはおそらく、儲けイコールどこか胡散臭さや搾取性を感じる何かが私の中に果食していたのだと思う。

もちろんブラック企業や貧困ビジネスなど悪質な企業もある。中小企業の障がい者虐待は、発生率では大企業を大きく上回る。ときどきそうした極端な事件報道がされるが、中小企業の障がい者虐待の多くは経済的虐待であり、賃金や年金のピンはねが多くなっている。

しかし、考えてみれば、こうした事例はわれわれ社会福祉法人の中にもみられ、企業に対する警戒心は一部を見て全体を見ない視野の狭い認識であろう。これは、われわれが経営の範としている企業家のみなさんの実践が裏付けているとおりである。

社長さんの障がい者雇用は真剣、本気！ 福祉にならなくていいの？という感じ

今回、11月に神奈川県で開催された障害者問題全国交流会で感じたものも同様で「福祉だけの世界に埋没することが、福祉の感性を劣化させてしまう」ことに危機感を強く抱かせるものだった。

分科会の実践報告は学習塾経営者。なんと、引きこもり等労働意欲の無くなった若者を含め、障がい者の就労を支援しているのである。そこでは労働意欲以前の「生き意欲づくり」の教育でプログラムが構成

されている。それこそ普通教育や障害児教育の中で忘れ去られている本物の教育が実践され、山田洋二の学校シリーズの映画を見るようであった。

彼らの就職支援ももちろんだが、ラーメンのお店を展開し始めており、そこも一般雇用のセカンドステップになっている。そこで働く引きこもりの青年の感動的な報告は、参加者のスタンドオベーションを誘った。

2日目の交流分科会は同席10人中、半数は就労移行支援事業A型(B型は私ともう一人の福祉関係者のみ)を経営しており、自身の経営を誇らしげに発言していた。

京都の経営者は、障がい者雇用をすすめる経営者のネットワークをつくっており、会員の障がい者雇用のための相談や共同の事業をすすめている。しかもメンバー企業には、加入のための障がい者雇用の質が求められ、ハードルは高く加入できない企業もままあるという。また、分科会には障がいのある従業員も普通に参加し、彼女の発言を自然なテンポと内容で受止めていたのも印象的であった。

交流会終了後、鎌倉市の障がい者雇用とA型事業所を運営する現場を見学した。障がい者を雇用し、さらにA型事業所では最低賃金を上回る賃金を支給している社長に對する障がい者の絶対的信頼は、その表情にあらわれていた。また、その光景を見る健康者の従業員は社長以上にほこらしい雰囲気伝わっていた。

「共感」と、市場で鍛えられた「雇用を実現する知識と技術の裏づけ」が企業家と私たちの決定的な違い。

振り返って、私たち福祉を企業とする労働者にとつて就労支援とはなんだったんだろうと考える。個別支援計画に本人ニーズは「就職」と記入し、気持ちはこめたつもりでも具体的な行動は相変わらず昨日の活動を繰り返すだけとしたら、私たちの感性は、障がいある人たちへの「働きたい」という願いに到達してないのではないかと思う。

感性は、例えばパンを作ったり売ったりするという具体的な知識と技術がなければその願いにつながることはできない。願いを実現するという確信のない感性は、聴くふりをして聞き流すという無関心の行動をつくりだしがちな。

企業家と私たちの違いは、かれらの障がいある人たちへの共感と、市場(地域)で鍛えられた雇用を実現する知識と技術の裏づけが決定的な違いなのではないだろうか。中小企業家同友会の障害者雇用を実現している社長さんからは、自立支援法による制度後退の話をする決まって冷ややかな態度をされる。地域の宝というのは、どんなことがあっても障がい者雇用を守り、社会貢献を実現する彼ら中小の企業家のことではないのだろうか。